を実施することになった。

(2) 校内研修会の講師依頼のあった学校

○ 福島県立B商業高等学校

○ 福島県立C高等学校

○ 福島県立D農業高等学校

(3) 研究の対象となった本教育センター研修講座

○ 教職5年経験の高等学校経験者研修Ⅰ講座（以下「研修Ⅰ講座」という）・149名

○ 教職10年経験の高等学校経験者研修Ⅱ講座（以下「研修Ⅱ講座」という）・105名

○ 学校カウンセラー上級講座（以下「上級講座」という）・5名及び協力者5名

2．研究の内容

本研究は，次の内容で行った。

(1) 生徒指導・教育相談の校内研修会の在り方に関するアンケート調査

① ねらい　生徒指導・教育相談の校内研修会の在り方を探る

② 対　象　研究協力校及び研修Ⅰ講座

③ 調査項目

○ 校内研修会実施の有無と実施していない場合の理由

＜以下，現に校内研修会が実施されていなくても，実施する場合を考えて回答してもらうための設問＞

○ 年間の実施回数

○ 参加対象者

○ 研修会のテーマ

○ 研修方法

なお，研究協力校以外のアンケート調査の対象を研修Ⅰ講座受講者としたのは，クラス担任等の校務を一通り経験し，学校の中で最も生徒指導・教育相談の力量を高める必要性を感じていると考えたからである。

(2) 研究協力校及び講師依頼のあった学校における校内研修会

研究協力校及び講師依頼のあった学校において，以下の手順で校内研修会を実施した。

○ 研修テーマの選定と研修方法の検討

○ 研修会の実施

○ 研修会の評価

研究協力校における校内研修会は，年間の現職教育研修計画の一部に位置づけて，4回実施した。講師依頼のあった学校における校内研修会は，各1回実施した。

また，研究協力校における初回と講師依頼のあった3校の研修テーマ及び方法は，同じとした。生徒指導・教育相談の力量を高めるのに，どの学校にも効果の大きい研修テーマ及び方法を探るためである。

(3) 生徒への指導援助に関するチェックリスト（試案）の開発と試行

教育相談の予防的・開発的な機能から，先行研究を基に，教師自ら，日々の教育相談活動を見直すことを目的に，生徒への指導援助の自己チェックリストを開発し，試行した。

生徒への指導援助に関するチェックリストは，治療的・予防的・開発的の3つの側面から構成し，研修Ⅱ講座受講者を試行の対象とした。本講座受講者は，学校の教育活動の中核を担い，治療的・予防的・開発的の3つの指導援助の力量が最も必要とされると考えたからである。

(4) 相談的教師のチェックリスト（試案）の開発と試行

今，求められている新しい学力観では，これまでの知識を教え込む指導観から，生徒の成長を温かく見守り，育てる指導観への転換が求められている。

相談的教師とは，新しい学力観以前から，育てる指導観を実践してきた望ましい教師の一つの姿である。今，新しい学力観を具現化する教師像は，相談的教師そのものであり，教育相談のもつ予防的・開発的な機能から，相談的教師のチェックリストを開発した。

本チェックリストは，上級講座受講者及び協力者の教師に対し，これらの担当クラスの生徒が行った。

Ⅳ　研究の実践

1．生徒指導・教育相談の校内研修会の在り方に関するアンケート調査

(1) アンケート調査の結果